

# 博物館だより



No.84

平成25年4月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行  
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13  
TEL 0930-33-4666

## 博物館友の会 会員募集!

みやこ町歴史民俗博物館友の会は「故郷を楽しく学ぶ」をモットーに、講演会やバスハイク・歴史たんけんウォークなどさまざまなイベントや学習会を行っています。

関心のある方なら、ごなただでもお気軽に参加いただけます。ぜひ、ご入会下さい。

### ♪入会の方法

博物館の窓口で会費を納めてください。

### ♪年会費

個人会員 3000円  
家族会員 1名2000円

### ♪お問い合わせ先

みやこ町歴史民俗博物館内  
友の会事務局  
Tel 0930・33・4666

### 4月期歴史講座のご案内

#### 【漢詩紀行講座】

4月6日(土) 9時30分

#### 【古文書講座】

4月13日(土) 10時00分

#### 【古典かな講座】

4月20日(土) 9時30分

#### 【金曜古文書講座】

4月26日(金) 10時00分

#### 【みやこ学講座】

4月27日(土) 10時00分

## 歴史学習DVD

# みやこの歴史発見伝!

# 歴史発見伝!

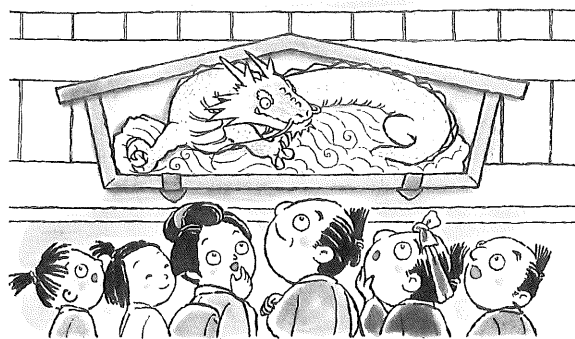
当館では歴史学習DVD「みやこの歴史発見伝!」を実費にて配布しています。町の史跡などを紹介した8本の実写映像と、昔話をイラストで紹介した2本の「映像紙芝居」の、計10本のソフトを収めています。

町の歴史を知るには絶好の教材です。ぜひ、お手元にご覧下さい。

### ■収録映像のタイトル

#### 【実写】

- 「みやこ町ってどんな町?」
- 「豊前国府と国分寺」
- 「豊前国分寺三重塔」
- 「みやこ町の古代寺院」
- 「みやこ町の大きな古墳」



▶「生立さまのしばり龍」のワンシーン

- 「永沼家住宅」
- 「みやこ町の近代化遺産」
- 「旧制豊津中学校講堂思永館」

### 映像紙芝居

- 「生立さまのしばり龍」
- 「小松ヶ池の龍と胸の観音」

◎合計映像時間約1時間

### ■配布価格

1枚1000円(実費)

### ■配布場所

当館窓口カウンターにて

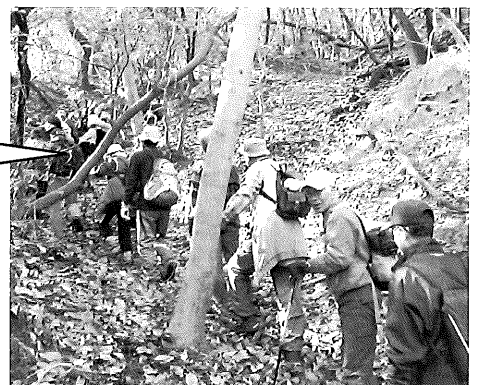


▶DVD「みやこの歴史発見伝!」

## 業務日誌から

2月10日(日)博物館友の会「歴史たんけんウォーク～江戸時代の七曲峠を歩く～」実施。25名が参加。

2月24日(日)「三重塔まつり」開催。好天にめぐれ、少年少女俳句大会表彰式・祓郷太鼓・野立・各種出店・護摩焚き等、多彩な催しが実施されました。



# みやこの歴史発見伝 63

古文書が語る村の生活と文化 13

## 村の名医たち 3

### 仁術の人・福田東庵

医師・福田東庵

左の史料1は、弘化五年(嘉永元年・一八四八)二月、仲津郡(現みやこ町・行橋市の一部)の筋奉行(郡内農村を統括する役職)西正左衛門が、国作手永大庄屋・国作元左衛門に対し、医師・

福田東庵が錦原(現みやこ町役場豊津支所を中心とした標高約三十〜八十五mの台地)へ移住することに關し、その居宅について問い合わせた文書です。西正左衛門が言うには、福田東庵が錦原に移住することは、

#### 【史料1】

福田東庵、年賀罷出候節、錦原に居住之義、昨年申出候失費等之義、其俣二いたし置先ツ身柄罷越学文、医学両様相兼世話いたし見申度、長左衛門家二御定被下候様との義申出候、右罷越候様相成候ハ、其俣二可相済候哉、手入旁失費多有之候、而者当年柄之義二付難相成、早々取調子見可被申様存候、先達より早々可申入所、取紛致延引候、已上

#### 【解説文】

福田東庵、年賀罷出候節、錦原に居住之義、昨年申出候失費等之義、其俣二いたし置先ツ身柄罷越学文、医学両様相兼世話いたし見申度、長左衛門家二御定被下候様との義申出候、右罷越候様相成候ハ、其俣二可相済候哉、手入旁失費多有之候、而者当年柄之義二付難相成、早々取調子見可被申様存候、先達より早々可申入所、取紛致延引候、已上

二月九日 西正左衛門

国作元左衛門殿

(国作手永大庄屋弘化五年日記一月十一日条)

前年の弘化四年に東庵自身が申し出たもので、それに必要な費用をどうするか、西は相談を受けていたようです。医師が村に住むことの公益性を考えれば、医師個人の負担だけではなく、なんらかの公的な費用負担も考えられたのでしょうか。しかし、答えが出ないまま時が過ぎたため、弘化五年の年始に会った際、東庵は西に対し「費用のことはひとまず置いて、身一つで錦原に移り、寺子屋の師匠と医者兼ねて住人の世話をしたい」と言い出したのでした。あわせて、

居宅(診療所兼寺子屋)は錦原にある長左衛門という人の持ち家を使わせてほしい、と申し出てきたのです。西は国作元左衛門に対し、長左衛門の家はそのまま使用できるのか調査を指示し、手入れの費用が嵩むことを心配しています。

#### 錦原への移住

現存の史料で、福田東庵の名前が確認できるのは、史料1から二年前の弘化三年(一八四六)が最初で、この時、彼の居村は仲津郡菟島村(現行橋市)でした(長井手永大庄屋弘化三年日記七月二日条)。また、彼の息子曾一郎(のちに芳洲)が、天保七年(一八三六)に、村上仏山の私塾水哉園(京都郡上稗田村)に入塾した際にも、入門帳には「豊前小

#### 【史料2】

其方義、当秋田中村之者 風病二付深切ニ致療治 度々相見廻人数人相助力候段 令満足候、右二付聊当札 酒料差遣之候

#### 【解説文】

其方義、当秋田中村之者 風病二付深切ニ致療治 度々相見廻人数人相助力候段 令満足候、右二付聊当札 酒料差遣之候

(国作手永大庄屋嘉永三年日記 十二月二十二日条)

倉領菟島 福田曾一郎」と記されています。そこが父祖代々の地かどうかは知り得ませんが、少なくとも、東庵が長く菟島村を居村としたことは確かです。彼が、その住み慣れた土地を離れ、錦原に移り住むことを決意したのは、医療と教育の面で、錦原の人たちが大変困っている現状を憂えてのことだったでしょう。

#### 仁術の人

錦原は長く無住の原野でした。が、郡代(領内農村支配の統括者)の指示によって、天保十年(一八三九)から開発が始まり、一年余りで戸数四十軒程度の新しい町がつくられました。ただ、この町は、最初こそ隣領・中津城下からも移住者があつて賑わったものの、原因は不明ですが、程なくして衰退を始めます。史料1のあと、どのような経緯をたどったか不明ですが、嘉永二年(一八四九)三月まで、実